

2021年活動レポート

NPO 法人キリンこども応援団



2022年1月1日

御礼

皆様にご支援いただき、多くの子供たちに支援を実施することができました。
改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。
ここに、2021年の活動をまとめさせていただきました。ぜひ、ご覧ください。
2022年も引き続き、居場所創り・不登校支援・貧困対策を実施していきます。
ぜひ、ご支援いただければ幸いです。

NPO 法人キリンこども応援団 代表理事 水取 博隆

もくじ

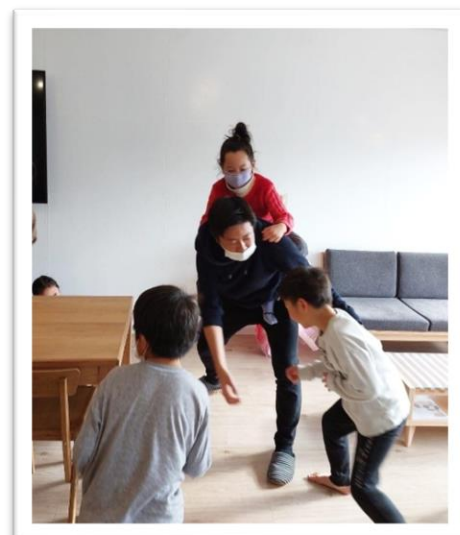
1. キリンの家の活動

2. 2021年の活動

- ① さのだい子ども食堂キリンの家
- ② キリンフードパントリー(泉佐野・貝塚)
- ③ フリースクールキリンのとびら

3. メディア掲載記事

4. 2022年の目標



1. キリンの家の活動

NPO法人化いたしました！

2021年10月21日にさのだい子ども食堂キリンの家は、(一社)にぎわい夢創りプロジェクトから独立し、NPO法人キリンこども応援団(代表理事 水取博隆)を設立いたしました。

「自分の未来に踏み出せる場所を創造する」を理念にこども食堂事業、フリースクール事業、フードパントリー事業を運営していきます。



理念

自分の**未来に踏みだせる場所**を創造する

こども食堂

子ども食堂キリンの家
居場所作り



フードパントリー

泉佐野フードパントリー
貝塚フードパントリー

食材配布・宅食

不登校児童の 伴走支援

フリースクール キリンのとびら

学習支援・家庭支援

キリンの家の再開

2018年7月から始まった子ども食堂「さのだい子ども食堂キリンの家」は、コロナウイルスの流行により、2020年2月から中止を余儀なくされましたが、皆様のご支援をいただき、独自の拠点で活動を再開することができました。

継続事業の実施・新規事業の立ち上げ

子ども食堂再開後、一年間で123回のこども食堂を開催し、延べ2715人の子供たちに居場所・食事支援を行うことができました。

また、新規事業といたしまして、2022年7月から泉佐野市と貝塚市において、毎月100世帯に食材配布を行う「キリンフードパントリー」を開催。11月からは不登校生徒の学習・生活支援を行う「フリースクールキリンのとびら」を開設いたしました。

近年の背景と課題

○貧困世帯の深刻化

厚生労働省が子供たちの7人に1人が相対的貧困に陥っていることを発表しました。社会的なセーフティーネットにかからない子育て世帯が存在します。

○不登校生徒の増加

不登校生徒の数は増加しています。全国で小中学校の不登校児童・生徒は19万人以上を数えます。行政が運営する適応指導教室などがない自治体もあり、またあっても数が少ない状況です。

○繋がる機会の減少

コロナウイルス流行により、地域や学校での行事は少なくなり、子供同士が仲良くなる機会、そして子供と大人がコミュニケーションをとる機会はほとんどなくなってしまいました。保護者同士も同様で、地域の繋がりが失われつつあります。

課題解決の一助に

経済的や家庭的な問題を抱えて「食べることに困っている」困窮者に対して、フードパントリーを通じた食材配布、不登校児童・生徒及びその家庭に対して居場所創り、また地域を繋ぐコミュニティ拠点となる子ども食堂の運営を継続して実施することにより、多くの子供たちを笑顔にできる活動を目指します。

2. 2021年の活動

① さのだい子ども食堂キリンの家

2020年12月に新たな拠点で活動を再開することができました。また、日本財団様のご支援により、2021年10月には拠点を拡張することができ、入室できる人数も多くなりました。

活動再開した2020年12月～2021年12月までの一年間で
支援した子供の数

| | |
|--------------|------------|
| 開催日（お弁当配布含む） | 123回 |
| 参加した子供 | 2,715人（延べ） |



○現在の開催状況： 月16回開催

○登録者： 小学1年～高校生 140人（学年別に開催）



② キリンフードパントリー(泉佐野・貝塚)

フードパントリーとは、企業やお店、個人の皆様からご寄付いただいた食材を生活困窮者や子育て世帯に無料でお渡しする活動です。

キリン子ども応援団では、泉佐野市と貝塚市において、毎月それぞれ50世帯(合計100世帯)の子育て世帯に食材配布を実施しております。

泉佐野キリンフードパントリー(2021年7月開始)

配布日 : 毎月第四日曜日
開催回数 : 6回
支援世帯数 : 300世帯
配布施設 : いこらも〜る泉佐野



貝塚キリンフードパントリー(2021年9月開始)

配布日 : 毎月第二日曜日
開催回数 : 4回
支援世帯数 : 200世帯
配布施設 : 貝塚市中央公民館



③ フリースクール キリンのとびら

年々増加する不登校児童・生徒及びその家族に対して、安心して過ごせ学べるフリースクールを開設いたしました。

現状、行政が運営する適応指導教室は数が少なく、そこで合わない不登校の子供たちは居場所がない状況です。

特に南大阪ではフリースクール自体の数が非常に少ないため、開校後は多くのご相談やお問い合わせをいただいております。

フリースクールキリンのとびらでは、教育委員会や学校と連携し、出席扱いの協議も可能な施設となっています。

2021年11月から開校し、現在は2名の子供たちが入学しています(12月31日現在)。



3. メディア掲載記事

読売テレビ ten.に再開までの様子を取り上げていただきました
(2021年4月7日放送)



The image shows a screenshot of the ytv website and a video player. The website header includes the ytv logo and navigation links for News, Sports, and other content. A banner for Tableau is visible. Below the banner, there are two program thumbnails: 'Let's go! 若一調査隊' and 'お宝発見! 探検がどしゃぶり'. The video player shows a news report about a children's dining hall, 'さのだい子ども食堂 キリンの家', which is a place where children and the community interact. The video title is '希望 コロナ禍の子ども食堂 地域みんなで作る場所' and the subtitle is '子どもたちと地域の交流の場'. The video player also includes a COVID-19 information link and a Google search link.

<https://youtu.be/46yJTFmsW5E>

読売新聞にこどもの日イベントの様子を
掲載いただきました
(2021年5月4日読売新聞朝刊)

子どもを笑顔に
食品を無料配布
泉佐野「キリンの家」

泉佐野市内で子ども食堂を運営する「さのだい子ども食堂キリンの家」は3日、地域の子どもに、協力店から提供された食品を無料配布する「フードパントリー」を実施した。写真。



キリンの家は、2018年から月1回、市立佐野台小校区の小中高生を中心に、無償で食事を提供。昨年2月以降、新型コロナウイルスの影響で一時休止したが、昨年12月から感染対策をして再開した。

今回、大型連休中も遠出や友人と遊ぶことを控えている子どもたちに、思い出を作ってもらおうと企画。マクドナルド泉佐野店が協力し、約90人にハンバーガーセットを配布した。マスク姿の子どもたちが訪れ、笑顔で受け取っていた。

4、5日にも洋菓子店や青果店の協力を得て、菓子などを配布する。代表の水取博隆さん(38)は「楽しみができることが希望となる。少しでもできることを探していきたい」と話していた。



読売新聞に掲載いただきました
(2021年10月4日読売新聞朝刊)

大阪
ひと語り
地域のつながり育む場

泉佐野市鶴原にある「さのだい子ども食堂キリンの家」代表の水取博隆さん39は、地域の子どもに、食事を楽しめる場所を提供しています。「貧困対策」というイメージが強い子ども食堂ですが、一人でも多くの子どもが「あの場所があったよかった」と思ってくれるような機会になればと、取り組んでいます。

キリンの家は2018年7月、市立佐野台小の保護者が中心となって設立されました。校区に住む小学生から高校生までの希望者が事前に登録し、月1回、地域の集会所を借りて活動してきました。これまで約140人に食事を提供してきました。

活動を始めるまでは、子ども食堂という活動が必要かどうか疑問を持っていました。「ご飯食べられへん子っているの?」「本当に必要なん?」

ところが、保護者としてPTA活動やスポーツイベントなどを通して子どもと触れ合

「さのだい子ども食堂キリンの家」代表
水取 博隆さん 39



泉佐野市出身。貝塚市職員。今年7月から、泉佐野市で18歳以下の子どもがいる世帯に向け、企業や個人から寄付された食品や物品を届ける月1回のフードパントリーも開始し

た。9月からは、貝塚市でも実施するなど活動を広げている。寄付や問い合わせなどはホームページ (<http://nigiwai-p.jp/kodomo/toiawase/>) から。

う中で、ある日、普段と違う雰囲気の子どもがいることに気づきました。いつもは元気が

いっばいなのに、少し寂しうにしたり、急に抱きついてきたり。子どもなりに、何か

のサインを出しているのかなと感じました。

そんな時、知人から子ども食堂の企画を紹介されました。食事の提供はあくまで「手段」で、子どもが安心してふれ合える居場所づくりが必要なのだ、心にストンと落ちました。子ども食堂では、「オッチャン」と呼ばれています。ありのままの子どもたちを受け入れ、垣根を作らずに楽しんでもらえていると思っています。

◇ コロナ禍で昨年2月から、全く活動ができなくなりました。子どもたちは学校が休校になり、外にも遊びに行けません。「こんな時こそ、つながりが必要」と奮起し、子どもたちが集まれるよう仲間とともに空き店舗を借り、リノベーション(改修)しました。昨年12月から学年ごとに利用日や時間を分け、お弁当を取りに来てもらうスタイルで再開できました。「ただいま」

「元氣?」とあいさつを交わしながら、久しぶりに子どもたちの笑顔を見てみると、うれしくなりました。

活動は多くの人に支えられています。「自分でもしたいけど、直接できないから」と野菜や食材などを提供してくれる地元農家さんやスーパーなどのほか、食材に応じてカレーライスなどの調理を手伝ってくれる保護者らです。運営費に充てるため、地元産フルーツを使ったジャムも作ってくれ、市のふるさと納税返礼品にも採用されました。子どもたちも含め、みんなでキリンの家を盛り上げていると実感します。

11月からは日本財団の支援を受け、子ども食堂のスペースを広げ、フリースクールも開始します。子育ては「みんなできゃればいい。地域のつながりをより深めることで、子どもが安心して過ごせる場所になればと考えています。いつか、キリンの家で育った子が、大学生や親になって戻ってきてくれ、一緒に活動できるようになれば、最高だなと思っています。(聞き手・北口節子)

4. 2022年の目標

2021年も多くの皆様にご支援いただき、活動することができました。自分たちの拠点を持てたことで、活動の幅が一気に広がりました。いままでの子ども食堂だけでなく、フードパントリーやフリースクールの開設など、継続して実施していきたいと思えます。

① 事業の安定継続

子ども食堂事業、フードパントリー事業、フリースクール事業を安定的な継続を実施していきます。

- ・ NPO法人の賛助会員の増加を目指します
- ・ フリースクールの認知度を高めて、不登校児童の支援を広げていきます
- ・ フードパントリーの活動をさらに広げていきます

② 子供たちの体験事業を増加

子供たちにとって、体験活動を通じた成功体験は大きな自信につながります。子ども食堂やフリースクールに通っている子供たちに、多くの体験活動を実施していきます。

③ 団体の認知度を高める

日本には「人に迷惑をかけない」という風潮があります。しかし、苦しんでいる子供や子育て世帯にとって、頼ってもらえる団体を目指します。そのためにも、子供たちや子育て世帯のために支援している団体があることを多くの皆様に知っていただけるよう、SNSやホームページ・各種媒体においての発信をさらに行っていきます。

最後に

皆様に支えていただき、2021年は活動を大きく広げることができ、多くの子供たちや子育て世帯の皆様へ支援を届けることができました。

本当にありがとうございました。

最近、子ども食堂の子供に言われた言葉があります。

「最後は、オッチャン（水取）を頼るね」

いや、最後じゃなくて、もっと早めに頼ってほしい！
僕たちが、もっともっと甘えていい存在だということを
伝えていかないといけないと感じました。
甘えられる、頼られる存在に。

今後も、皆様からいただいたご支援を、しっかり届けられる存在として
真摯に頑張っていきたいと思えます。

ぜひ、今後とも、皆様からのご支援をお願いいたします。

特定非営利活動法人キリン子ども応援団
代表理事 水取 博隆



キリンの家

特定非営利活動法人キリン子ども応援団

〒598-0071 泉佐野市鶴原 820-9

Tel・Fax : 072-475-6364

Mail: kirin.doors@gmail.com

HomePage : <https://kirin-npo.com/>